水源禅師法話集 24

（2013 年 10 月 12 日 忍野合宿）

2014 年 11 月 21 日

一乗会

水源禅師のクティの湖にいる水鳥

目次

水源禅師法話..... 1
お釈迦様の菩提樹..... 1
カナダのクティに生えた楓の木..... 2
蟻は非常に進化した生き物..... 3
愛を理解するグリーンランドの人々..... 3
無明である社会常識..... 4
人智を超えた不可思議な因縁（１）―水源禅師の体験を通して―..... 4
人智を超えた不可思議な因縁（２）―キリスト様、観音様を通して―..... 6
サマーディブッダ..... 7
阿弥陀様との深い因縁..... 9
人を殺すことだけはしてはいけない―なぜなら、この体が仏だから―..... 10
ホープダイヤモンド..... 11
「苦難・苦労」があるからこそ進化できる「愛の道場」..... 12
質疑応答..... 13
因縁は変えられるのか？..... 13
三十七仏とブラフマ・ビハーラ（四梵住）..... 14
地蔵菩薩様と実在する地獄..... 15
仏法は宇宙の最高の宝..... 16

水源禅師法話

お釈迦様の菩提樹

水源禅師が将来された「お釈迦様の菩提樹の種」から
A さんが育てられた菩提樹

この菩提樹はキング・アショーカ（アショーカ王）[1]、今から 2250 年くらい前かな、そのあたりから、そのときに王子様と王女様をインドからスリランカに送ったわけなのです。　そのときに菩提樹を根分けして、種ではなく、その 1 代目の種から A さんが日本で咲かせたわけです。菩提樹というのは芥子みたいに小さい種です。去年？ 一昨年ですね、私が持ってきた種から、これまで大きく心を込めてしてくれたわけです。それで、皆さんにこの菩提樹の木の下で、お釈迦様が悟りを開いた木の 2 代目の子どもです。私は、そこのブッダガヤの菩提樹の木の下で、朝な夕なに 1 週間その下で瞑想させてもらいました。今は菩提樹の木の下で、瞑想できないように、大きい柵(さく)に囲まれています。私が行ったときはまだ坐れました。まあ、気

[1] 古代インド、マウリヤ朝第 3 代の王。在位は前 268 年頃-前 232 年頃。生没年不詳。パーリ語仏典では Asoka。漢訳仏典では阿育と音写、無憂と意訳。父はビンドゥサーラ。父王の死後、兄弟と争って王位を継承した。王の碑文によれば、在位第 8 年にインド半島北東部のカリンガ国を征服し、このときの数十万に及ぶ殺戮がきっかけとなって仏教に帰依した。これよりダンマ(法)に基づく政治を実施し、仏教教団を手厚く保護した。

持ちがよかったです。そして、一つ一つの仏陀には、悟りを開く木が違うようです。お釈迦様の場合は、この菩提樹。次の弥勒菩薩の場合は龍の木の下で悟りを開く。龍の国で生まれ、龍樹の木の下で悟りを開く。だから、すべて過去の仏は、すべて違う木の下で悟りを開いております。

だから、木というのは、ただあるわけではないです。この地球が発生するときには、まず木が発生する。森林が、そのフォーレストで、動物ができ始める。だから、チベットでは「グリーンターラ」といって。「グリーンターラ」と言うでしょ。つまり、生命そのものを発生させる不可思議な宇宙的なものなのです。ところが、私たちはむやみやたらに木を伐採したり、木を殺してしまうけれども、私は木を切るのがとってもいやだけど、今回、改築するときに伐採業者を呼んで、根元は切らないで、生かすようにして木の伐採作業をお願いしたのです。だから、木というのは非常に神秘的で、木に神が宿るわけですね、第一天の神々が。だから、神木というのは、木そのものというよりも、そこに神が宿るわけです。だから、むやみやたらに木は切れないわけです。

カナダのクティに生えた楓の木

実は今回、カナダでクティを造るときに、ぐんにゃり曲がった楓(カエデ)の木が今にも倒れそうな状態です。まずは、これは切らなければいけないと、最初から思っていたわけです。ところがこの木から金色の光を発するのですね。見たこともない。私にはすぐ分かりました「私を切らないでください！」と。で、他の木は皆、低く切ったのです。そして私がそこに行ったら、一晩中この木はダンスして踊ってくれました。ブワー、ブワーとね。この楓がね、見たことがない藤棚（ふじだな）みたいに垂れ下がり舞いるのです。空中に浮いてクティを守るように、金色、ピカピカピカピカピカピカ。

お釈迦様が、なぜこの木（菩提樹）を見つけたかといったら、場所を探しているときに遠くの木を見たら「ピカピカピカピカ」とダイヤモンドみたいに光っている。それで、そこに行って坐った。木をよく見れば、光を発するのです。非常にきれいな真珠みたいな光とか。普通はないものと思うから、見過ごすだけ。でも、よく見たらピカピカピカピカ！ なんと言うのかな、小さい映画で出てくるでしょ！「妖精！」みたいに、木にいっぱい宿っています、よく見たら。鈴なりになっていて、それでまたスッと消えて。それを「神」と表現されたり、デーヴァ（神）と言ったり。それで、木の花とフルーツで生きているらしい。

あるインディアンの人が井戸を潰そうとしたらしい。そうしたら妖精のような小人たちが現れて「この井戸を潰さないでください！花を植えてください！」と。そのとおりにしたら、潰そうとした苦い水が美味しい水になって、どんどん湧き出た。というふうに、非常に不可思議なのです。私がすべての生きとし生けるもの、小さいものであれ、微細なものであろうが、すべてに慈悲を与えた場合には、目に見えるもの、見えないもの、生きているのです。

蟻は非常に進化した生き物

だから、そういうふうに見てください！無明で「蟻（アリ）は殺してもよい！」と。とんでも

ない！！蟻は非常に進化した生き物です。南方に行けばアリさんは、人間で言えばエンパイア・ステート・ビルみたいな高いビルディングを簡単に造るでしょ！ 高さ２メーター、３メーター。そしてエアコンディションみたいにちゃんと空気調整もするわけ。自分たちでちゃんと農園も持っています。地下は地上に出た 10 倍くらい深く掘っているのですね。そして、蟻さんは 254 のケミカルランゲージ（匂い言葉）を使うそうです。間違いない言葉を使うわけ。だから「どこに敵があるか、どこを直さなきゃいけないか」、ケミカルの匂いだけで全部、一瞬にして皆行く。そういうふうに、非常に進化した社会なのです。ただし、そこに生まれた場合は、安定した一つの王国が大体 1 億、その蟻塚が。

ところが、愛の世界が分からない。お母さんは一人しかいない、クイーン。すべてクイーンから生まれるから、その愛しか分からない。人間の場合は必ずお母さんがおる。必ずあるでしょ。体外受精でも必ず誰かが受け取って、会話とか、いろんな複雑なことで、愛の心を磨ける状態にあるでしょう。だから、私たちから愛を取ったら仏教は存在しません。という（愛は）非常に崇高なものであるけれど、なかなかそれが「ロミオとジュリエット」とか、そういう話になって「非常につくられた愛が最高の愛だ」と、皆そういうふうにしなければいけないと。でもね、お釈迦様は、そうは言っておりません。「そうではないですよ。そういうことにとらわれれば、無明の世界に行きます」と。

愛を理解するグリーンランドの人々

「グリーンランド」という北極に近い大きい島があります。そこはオランダ領。前はオランダもお金があったから、そこに住む人たちに食料とか送って、問題がなかったみたいだし、また、魚もたくさん獲れてオランダに輸出できるとか。ところが、金もなくなって、オランダ政府が魚を処理する工場を止めたのです。だから、そこは最果ての地で、グリーンランドのまた北だから。北極の一番、人の住まないところで、家も 20 軒くらいしかない。そのところでは、皆が「誰がお父さん、誰がお母さん、誰が兄弟、誰がおばあちゃん」とか、知っています。それで、この 16 歳の子が「あなたのお父さんはあそこで働いている。あなたのお母さんはあそこ」、それで「あなたはどこ」、「私は真ん中のおばあちゃんの家に住んでいる」。

なぜそうかと言いますと、おばあちゃんが、子どもが欲しいので、娘に「どうしても生んでくれ」と。でも、この旦那さんとの間では子どもができないわけ。それで、その娘さんがお母さんのために子どもを生んだわけです。だから「お父さんがあそこ」というのは「血のつながったお父さんがあそこにいる」というわけで、この人は「ハンター」といって、村で食糧難になったときには、真っ暗闇に行ってアザラシを捕らえて皆に食料をやる、とても尊敬されている方です。それで「お父さんとお話ししますか？」と聞けば、「もう心が動揺してお話はできませんから、目の前に行っても一回もお話ししたことない」と。でも、この子のお父さん。そこは男がたくさん生まれるところなのですね。女性はあんまりいない、子どもを生まなければ、村が死んでしまうと。

だから、私たちが考えられるような「非嫡出子」とか、そういう感覚は全くないわけです。だから、子ども同士はフットボールで遊んで壁がないわけです。「というふうなことを愛です」と、

お釈迦様は言っています。「そういうことに、あんまりとらわれたらいけませんよ！」と。ところが、私たちは大変、不道徳という考えで規制したこの世の中は、そのような愛は考えられない。そこでは全然このようなことでいじめはなく、仲よく遊んでいます。この村では子どもが生まれなければ死滅してしまうから、もっと深い次元で人間愛を理解できているようです。「この村の魚工場は閉じているし、お金も減らされるし、どうしようか」と。「南に皆、移って暮らそうか」と。グリーンランドの南の方、カナダに近いところへ。

ところが、「いや、皆で協力して工場を買い取ろうじゃないか！」と。オランダ政府と交渉して小さいお金で1万円、2万円、3万円と協力して出し合って工場を買い取って、そこで生活することに決めたようです。政府は何千万円もする工場を、この漁村へ譲ったわけですね。それで村が生き返って、今度は工場を四つ造ったのです。この子もヘリコプターで南の方のカレッジ（高等学校）に行って、そこでガールフレンドを見つけたと。ハッピーエンド！となるわけです。

無明である社会常識

だから、昨日言った「無明」というのは、社会によって考えた場合には恐ろしい結果をもたらすと思います。子どももいじめられて、奥さんがこれだと言ったら、大変なことになるからね！ でも、村の人は絶対にそれはタブーで言わない、すべてオッケー。というふうな　　ドキュメンタリーを見ました。

というふうに「やはり社会の規制も必要だけれども、あんまりとらわれないように！これすべて因縁によって起こっているから！」と、お釈迦様が言うわけなのです。だから、因縁によってこれが起こるのだから、因縁というのは人間の力では変えることができないのです、セッティングされています。「どこに生まれるか、どうなるか」と。「この地球が破滅すれば、10兆の他の宇宙に全部飛んで行く」と！「10兆の他の宇宙体、すべて飛んで、また天界に生まれます」と。ただし、無明を続けた場合には、この大宇宙が滅亡する、他の大宇宙が滅亡する中間のところがあって、この中間の空間は絶対に滅亡しないから、そこに堕ちた合には永遠に出られない。「無限地獄（阿鼻地獄）」ということ。だから「無明は捨ててください」と言っているのです。

人智を超えた不可思議な因縁（1）―水源禅師の体験を通して―

さっき言ったように、結局なんだかんだで、戦ったり、喧嘩したら大変でしょ！ 一瞬にして地獄に早変わりでしょ！ ところが、心の叡智で生きているから、反対の素晴らしいことも起こります。因縁というのは私たちの知能では考えられない。20数年前に「おー、これ素晴らしい道具で安い！」と、500円で買いました。私が今回、去年から予定していたクティを造るときに、実に役立ったのです、20数年前に全く予測もしないことでした、深い因縁のなせる業です。

私のお寺はトロントの一番高いところにあるのです、水害のない。他は湖が近くてとか、ダウンタウンはずっと低いでしょ。ところが、なんと不可思議なもので「集中ゲリラ雨」とかなんとか言って、水が私のところにどっかり落ちてきて、山のてっぺんから動かないで、地下が浸

水してきて、そして「これは大変だ！」と。どうしましょう！ そうしたら保険会社から金がどっさり降りてきて（笑）。このどっさり来たお金を半分、私の身を粉にして、今度、材料費だけでクティ建築工事の方に回して、うまくいった。これをインターセプトカルマ（突然因縁）というわけ。予期せぬことが発生するわけ。その前に南方の宝生仏が現れて「南はお金と宝の仏だけど、なんで観えるのだろう？」と。私には縁がないのに。「あー、保険会社から金がどっさり下りることだったのだ」と、後で分かった！（笑）

それで、20 数年前に「これは安い」と！これがすごかった。今は 10 万円くらいするわけ、もし買ったら。そういうものは、もう作られていないわけ。それで浸水したおかげで、家を整理して道具が出てきたわけ。それで出てきたおかげで、この道具をクティに持っていって、素晴らしい道具に変わってしまったのです。これだけでも 500 円が 10 万円くらいのものに変わってしまうわけ。こういうふうに因縁というのは、私たちの人智を超えた不可思議の世界にあるのです。20 数年前に誰が、私が分かって、ちゃんとこの道具を買っておくのですか？投げちゃうでしょ！「こんなの使わない」と！ ずーとそこにおって、そして、たまたま必要なときにちゃんと出てくる。

これは善い因縁。善い因縁がこういうふうに出て。だから、悪い因縁は逆に善い方向に向かっても、悪い因縁がとことこと出てくると。だから、まあ「一生懸命、心を磨いて、人のために尽くそう、尽くそう」と思ったら、こういうふうになるわけですね。道具も不思議ともう 4〜5 年前から、いっぱい買い集めていました。なぜか知らないけれども、「これいい！これいい！」と。そうしたら、この道具があるおかげでまあ役立つこと！例えばネイルガン（釘鉄砲）でボン！ボン！とあるでしょ。ハンマーで釘を打たなくてよいわけ。これが非常に役立った。それにはコンプレッサー（圧縮機）というのが必要なのです。なぜか、それを買っていました（笑）。

というふうに、もうセッティングされているということか、なぜ、私がカナダに行って、仏教をやらざるを得ないか！ それは英語。英語というのがなければ、本当の仏教が大成できないと。つまり、お釈迦様はインドヨーロピアン語で話したわけ、それを中国語に訳されて、今度は日本語に来たものだから、翻訳から翻訳で非常に分からないところがいっぱいあると思います。ところが、南方のパーリ語を英語に訳したり、パーリ語で読んだときには、非常に単純明快。ところが、中国語で訳したところは、また中国の文化で 1 万年の歴史というか、練られた心のニュアンスがこっちの経典にあります。だから、これが二つ合わさったときに、やー素晴らしいご褒美たくさん。心のご褒美ですね！ だから、私の旅が南方に行ったり、全中国、モンゴリアから東南アジアを回って、南米を回ってという、これちゃんと皆、深い意味があるみたいですね！ 人智を超えた旅だったのです。だから、過去 10 年間、病気することも怪我することもできない状態でした。それで、どんどこどんどこ計画がつながっていきましたからね！それでまあ、やっと今こうして、まあ来年あたりは病気できるかな！（笑）

まあそういうふうに因縁というのは非常に不可思議です。人智を超えたものです。ましてや私がこうして仏教の話するとは、夢にも思わないし。私はたまたま仏教が好きで好きで、真理を知りたいということでやってきて、まあ写真を撮って、後は瞑想して楽しく死のうかなと思

ったら（笑）、こういうことになっているわけなのです。私の描いた老後と今は、全く違います。でも天命を感じましてね、「これは、しなくてはいけない」ということだけは感じています。

人智を超えた不可思議な因縁（2）―キリスト様、観音様を通して―

そのカナダの方でも、仏教の経典は使えないから、私の体験と直接、行法でやらせた結果が、どんどん出てきますね。幸いキリスト様がインドで修行しているものだから、聖書にはそういう言葉がいっぱい出てくるのですね、パズルみたいに。その言葉がなんと禅の言葉と相対していました。非常に禅的です。そういう経典は日本では知られていないけれども、『The Secret Teachings of Jesus』という経典が1950年代にナイル川で発見されて、それをアメリカの学者が訳したものを読んでみたら、「イエス様のやっている修行は禅だな！」と思いました。だから、その経典を応用して言うものだから、すぐサッ！サッサッと理解してくれる。だから、今の聖書とは違い、発表されていません。ただそれはね、教会とか、いろんなしがらみがあるから、私は文献として利用させて、実際の応用として使っています。

だから、仏教者というのは「これはこれで、これ以外ない」ということをやったら、ぶれることがあると思います。だから「全部、総合的に見てね、いかなければいけない」ということを中国のお寺を訪ねて分かりました。私は『般若心経』がとても好きだったから。そのお寺の中に古い『般若心経』の経典があって、そこに書かれている言葉は、あれは「亀の国」（亀茲国）と言うかな？ 今は滅んでないです、シルクロードの国で。『般若心経』と比較したときに「あら！ちょっと違う？」と。それまでは一字一句、絶対、違わないものと！今のイスラームみたいに、頭にたたき込んでいたからね（笑）！ それから「あら？これはどういうことなんだろう？」ということで、『般若心経』の文献を調べ始めたわけ。幸いトロント大学にはすごい、いろんな経典が中国語、韓国語、チベット語からすべてそろえてあるからね。特に東京大学の仏教経典はいっぱいあります。パパパッとたくさんの文献を読ませていただいたら、すぐに分かりました。「なるほど！」。

それで、その中ですごかったのはね、「ポタラ」というのは「ポートアポロ」（Port Apollo）。というところがトルコにあるのです。そこは「アポロニアン」と言って、元々はエジプトのカイロにあるヘリオポリス・アポロテンプルの分院なわけです。なぜ「ポタラ」と「ポートアポロ」と言ったか。「観音様がインドの南の一番、端っこのケニアクマラというところから上がってきて、そこに足跡がある」という文献資料があるので、それで訪ねてみたのですよ。チベットの旅を終えた後で、ラサからずーと下りてきて、ヒマラヤ山脈を越えて、ネパールのカトマンズまで国際バスに乗って。そして、インドも陸路で南下して、ケニアクマラを訪ねて、インド大陸の最南端です。「そこからずーっと観音様がラサに上がってきた」と言われています。というふうに経典に書かれて、日本では知られていないけれど。この東京大学の文献で分かって、インド最南端の岩島へ船に乗っていったら、ちゃんと足跡が岩の中にあったのです。

そして、ネパールには非常に不思議な観音像があるのです。チベットの人はすべてそのお寺に行って、頭下げに行くのです。なぜかといったら、ネパールの王女様がチベットの王様と結

婚するときに、この王女様に観音像が「私もあなたと一緒にチベットに行きたい」と、そう言ったそうです。そう言ったら、王様がびっくりしてしまってね、その観音様の銅像に鎖で結んで逃げられないようにしたそうです。そうしたらね、その後、前に顔を下げて、涙目で「とても悲しい」と、「あなたと一緒にチベットに行けない」と。ということで、チベットの人は、そこが精霊地になって必ずお参りします。という観音様の話にしても、壮大なストーリーがあるわけです。

だから、因縁というのは、まさか観音様の現れた因縁が、エジプトのヘリオポリスにあるとは夢にも誰も考えないでしょう？ だから、今のダライ・ラマは「観音の化身」というわけなのです。ポートアポロ、そこは巫女が予言する、とても大事な寺院だったそうです。ということで、ヘリオポリスとかポートアポロは、そういう「予言の地」ということで、非常に栄えたお寺の町なわけです。だから、そういうことで狭く考えた場合には、大きい地球的なレベルのことが見えなくなって、今度は内々から見るから、狭い考えで内戦を起こします。お互いに殺し合う、小さい中で。そういうふうに、大きい目で見た場合には、そういうことが起こりにくい。

でもさっき言ったイヌイットの北、そういうこともなく、皆、共同体で素直に生きていく。その心が非常に浄化しているからなのですね、ケンカなんか、できる状況ではないのです。ところが、私たちはありとあらゆる物質文明で、ケンカ、ケンカばかり。シベリアのとっても寒いマイナス 50 度という、そういうところにも仏教があるのです。キリスト教も出てきたけれど、いまだに仏教でやっているそうで、シベリアのある町で尊いお坊様を 1 回、荼毘に付そうとして、火に燃やして焼いたのだけど、体が焼けないのですって。皆びっくりして、今は聖地になって、ロシア政府も破壊しないで、ボリショイ（大）革命のときでも宗教反対でしょ？ ちゃんといまだに残って、そこにあるそうです。という不可思議な世界に私たちは生きています。

昨日とどんでんかえしで、今日は因縁の話で、あんまり長く言ってもあれだから、質問にして、今日は早めにしましょうか？ 何か質問あればどうぞ。

サマーディブッダ

【参加者】

B さんが、ご自分で仏像をつくられたそうです。

【水源師】

すごいですね！ ハッピーブッダ！ 素晴らしいブッダで。すごいですよ。ここの瞑想会には、すごい方ばかりが集まってきていますね、本当に皆さんのお話を聞いたら。これ神仏のおかげで集めてくるのですね。あのね、パオでね、事務局長に「日本では、実は去年もニミッタ（丹光、禅相）が 2 人に 1 人、出ました」と報告しました。その方は驚愕して「そんなことあるのか？」と。そんなに出ないのです。ところが、話を聞けば、コロコロコロコロとニッミタが皆さん出ています。ニミッタを体験し始めています、大変なことなのです。それにプラス、これは素晴らしい仏像です。サマーディブッダ。

【B さん】

ボロブドゥールの仏像です。

B さんが彫られたサマーディブッダ

阿弥陀様との深い因縁

【水源師】

ボロブドゥールといったら、またこれ話をしないといけないけど、去年、護摩焚きしたでしょ。そのすぐ前に 3 週間、朝から晩まで行をして 1 日 4 時間しか眠れなかったわけです。その行を終えて、その次の日あたりに、もはや灌頂式（平成高雄灌頂[1]）。1200 年ぶりで、初めてオ

[1] 平成 24 年 10 月、弘法大師開壇 1200 年を記念して、京都神護寺にて総本山泉涌寺長老上村貞郎大僧正を大阿に迎え、24 日三昧耶戒、25 日胎蔵界受明灌頂が開壇され、水源禅師も投華得仏にて結縁した尊の印明等を授かった。

ープンするわけ。それを受けて、そのときに（投華得仏で）私は阿弥陀に花が落ちたわけ。目隠しさせて花を落とすところが（人それぞれ）違うわけ。弘法大師様は大日如来。私の場合は阿弥陀様。私にしては予期せぬことだった。そして、ボロブドゥールで護摩焚きするときに、本当は東から上がらないといけないのです。ところが、パトロールカーが来て連れていったところは、西の方だったのです。そして西から上がっていったわけ。西はすべて阿弥陀の印を組んでいました。「あらまー」と。そして、そこにたった一つだけ顔を出しているサマーディブッダが坐っています。そのサマーディブッタが、ちょうど私が護摩焚きした丘の上にちゃんと目線を合わせているのです。

だから、因縁というのは不可思議、無量。神護寺で灌頂を受けた後に目隠しされて、お花を曼荼羅図に落としますが、落ちたところが阿弥陀様でした。自分で願って阿弥陀のところに落ちたわけではないのです。ボロブドゥールに行ったら阿弥陀がお待ちになっていました。帰るときも今度、東から下りようとしたら、上の方で「いやいやあなたたちは西から来たでしょ？ 西から降りてください！」と。特別、西から下ろされたのです。すべて阿弥陀、阿弥陀だったのです。「最後に皆で祝杯上げて食堂で食べたい」と言ったら、とても粋な高級レストランへ連れていってもらいました。また西の方から遠くにボロブドゥールが見えるレストランです。というふうに、その日は阿弥陀様と非常に因縁が強かったですね。

目線が合っていたサマーディブッタ

なぜかといったら、阿弥陀を深く信じて、また偉大なる龍樹菩薩（150頃-750頃）も尊敬していました。龍樹様の経典を探しにスリランカまで訪ねたこともあります。その方の第一弟子 龍智菩薩、金剛智三蔵、不空三蔵、三人ともそこで修行したみたいです。それで、龍樹菩薩はAD 200年あたりに生まれた方。そして死んだのが、丁度このボロブドゥールが建って、丁度1200年前に死んだのです。その前に密教が日本に伝わってきて、最初に弘法大師様が灌頂をやった神護寺が1200年ぶりで、そこが開いて、私がたまたま護摩行を終えた翌日に灌頂を受けました。

弘法大師様が1200年前に、日本に護摩焚きを持っていくのを見届けながら、龍樹菩薩は西国浄土へ向かったと思います。1200年の時空を待って、灌頂式をやった神護寺の第一灌頂式

には、そのときには最澄様とか皆、偉大な人の名前が載っています。灌頂式を終えて、日本からまた旅を続けていき、ボロブドゥールに着きました。小説にもあり得ないことです。

だから、人智で物事を進めていたら大変なことになります。「流れにまかせて淡々と何があろうとも、ただただ人に尽くして、正直に、真面目に働けば間違いないし」、心配ないです。それにプラス「法」（真理）をもらえば、私の体験から、これほどのすごい大宇宙のご褒美はないですね。

私の過去 20 の過去生を本に書いたら驚愕してしまいますよ、「皆嘘でしょ！」と、馬鹿にされると思います。あんまり言わないほうがよいのですね。お釈迦様がちゃんと「前世がある」ということを言っていますからと、心配ないです。「ジャータカ物語」（お釈迦様の 500 前世）という経典を、自分の体験を通して、全く疑いなく読めます。「はーすごいものだ！」と。ということで、心から確信して、サンマサンブッダ（正覚仏陀）の偉大さを報告できるという冥利に尽きます。だから、因縁というのは、まあ、はかり知れないです。

人を殺すことだけはしてはいけない―なぜなら、この体が仏だから―

ただ、今の世は簡単に人を殺しますけれど、「これだけはしてはいけない！」どんなことがあっても。自分が死んでも人は殺さないほうがよいです。よいことなし。アフガニスタンとかパキスタンとか、今、全世界で無人飛行機（ドローン）が人を殺すでしょ！これ最悪。機械が人間を殺すものを人間が造ったということは。なぜかといったらね、ほとんどのアメリカ兵とかイギリス兵とか、現地に行った国連軍の兵隊は、ほとんど頭がおかしくなってしまうらしい。なぜかといったら、罪のない人を殺すから。タタタタタタ！と。そうしたらね、この米兵が帰ってきたら、一番大好きな友だちが交通事故で亡くなるのですって。そのうちにまた全部、友だちが次から次に死んでいくのですって。今度は兄弟が全部、死んでいくのですって。残ったのはお父さん、お母さん。最愛のお父さん、お母さんも亡くなって、ただ一人自分だけ。そう簡単に死なせてくれない。「偶然でしょ！これすべて」ではないのです。兵隊がはっきり言っているのです。「幽霊が付いてきて、私の愛する人たちを皆、殺した！」と。この話、一人ではないのですよ！ アメリカでゴロゴロ、たくさんこのような話をしています。だから、兵隊も殺したくないのです！「では何をするか」と言ったら、機械で殺すものを編（あ）み出すしかない。でも、機械で殺してコンピュータゲームでやってもね！ やっぱり殺した人は瞬間的にすごいエネルギーで、心と心だから！ 大変なことになると思いますよ。だから「殺すことはやめてください！」と。

なぜ「やめてください！」か。ということは、実は「この体は仏」なのですよ！ 間違いなくブッダなのです。ただ、私たちの心がブッダに進化していないから、信じることができないと思います。この永遠の無限の時間を通して来ているわけなのです。だから、この目があるでしょ！口があるでしょ！これすべて「仏の働き」で見えるわけです。だから「三十七仏[1]が私たち

[1] 大日、阿閦、宝生、無量寿、不空成就、金剛波羅蜜、宝波羅蜜、法波羅蜜、羯磨波羅蜜、金剛薩埵、金剛王、金剛愛、金剛喜、金剛宝、金剛光、金剛幢、金剛咲、金剛法、金剛利、金剛因、金剛語、金剛業、金剛護、金剛牙、金剛拳、金剛嬉、金剛鬘、金剛歌、金剛舞、金剛香、金剛華、金剛燈、金剛塗、金剛鉤、金剛索、金剛鎖、金剛鈴（以上、敬称略）。

の体に入っている」わけなのです。それを一つとして「大日如来」と表しているけれど、この三十七仏の一つ一つのファンクション（機能）がなければ、私たちはこういうふうな健康体を持てないわけです。だから、三十七仏をしっかり分かったときには「もう弥勒仏陀を待たなくてもよい！」ということ。「あとは、あなたは修行して仏になるだけだから」ということなのです。

だから、南伝仏教では三十二身分の瞑想法をやるわけです。髪の毛とか歯とか32。それにプラス５は「眼、鼻、舌、耳、体」ね。それは皮膚というのがあるのだけれど、それはセックスカラーパが入っていないから。男女、分かれるのは皮膚の中に入っています。それで5。五つ合わせて37になります。だから、すべてのブッタは少しずつ違うのです。

ホープダイヤモンド

お釈迦様は「神通遊戯釈迦牟尼仏」（じんずうゆげしゃかむにぶつ）といわれます。神通でありとあらゆることができる。カクサンダ仏陀（拘楼孫仏）は「悪魔に打ち勝つ仏」とか。そのダイヤモンドもね、白いのではないのですよ。赤いダイヤモンド、カナリーダイヤモンド、ブルーダイヤモンド。有名なスミソニアンミュージアム（スミソニアン博物館）のブルーダイヤモンドのこと知っていますか？ これはフランスの億万長者が、これは正式にはホープダイヤモンドといいます。このダイヤモンドをフランスの億万長者が手に入れて全部破産してしまったの。このブルーダイヤモンドは、仏陀の第三の目に入っていたのを盗んでヨーロッパで売ったらしい。だから、このブルーダイヤモンドを割ってホープダイヤモンドと、もう一つ作ったらしいのだけれど、このブルーダイヤモンドを持った人はすべて悲劇に遭うそうです。そして、スミソニアンが買ったとか？ 私がそれを見にいったときには、拳銃を持って防弾ガラスの中に入って５人でちゃんと守っていた（笑）！ なんと、このホープダイヤモンドがアメリカにあるおかげで、今、経済的に大変なのかも！このブルーダイヤモンドというすごいダイヤモンド！ お釈迦様の額（目）にあったらしいよ。というふうに、まあ因縁の力は、はかり知れませんよ。まあでもよく話が出ること（笑）。

「苦難・苦労」があるからこそ進化できる「愛の道場」

だから、さっき言ったように「平穏に生きていけば、心騒がずに」、もうこれですごい「愛の道場」に生きていくということだから。この「苦難」がなければね、全くこの道場が価値ない道場で遊園地になるでしょう。学校にいて「すべて先生がすべて三重丸！」だったら、学校に行く意味がないわけ。ここは本当の素晴らしい宇宙の「愛の学校」だからね！ それでいろんな試練があるかもわからないけど！ そこでがんばって！「一体、愛というものは何なのか？」ということを体得していくことが必要なわけです。だから、昨日も言ったでしょ！「ムディター（喜）という歓喜の世界は、結局、メッタ（慈）、カルナー（悲）、その上である」と。「その世界は№.9（第九）、ベートーヴェン「交響曲第９番」を超すものである！」と。なぜそう言うかと言ったら、彼が体感したことをスコア（楽譜）に書いたでしょ。それは「Second-hand

Knowledge」（間接情報―人から教えてもらった知恵）なのです。それでも感激するでしょ！だから、本人がそれを書きつづるときの「歓喜の世界」、そのことを私は言っています。

だから、映画を見てほろほろ泣くのもよいのだけれども、その世界で生きてこそ、本当の歓喜が分かるわけです。これを宗教上では「エクスタシー」と言います。これが非常に難しいものだから、口を閉じて言わないようにしているのだけれども、なぜかといったら、すぐ世俗的なものと誤解されてしまうから。非常に崇高なエリアにあるわけ。ただ、ベートーヴェンはブラフマ・ビハーラ（brahmavihāra：四梵住）のそれはやらなくても、それを書きつづったわけ。それで、才一（さいち）さん[1]という方は、ただ一心に阿弥陀、阿弥陀でやって、その世界に到達したわけ。だから、地位名誉は関係なく、誰でも平等に、その世界に行けるというわけ。その世界に入れば、全宇宙が崩壊しても、すぐ他の天界に生まれますからね。ということは、まあ、「ドゥッカ（苦）のない世界の境地に入った」ということ。そこに生まれれば「必ず禅定に入って、もうすぐ涅槃の世界を迎える」ということだからね！

だから、この宇宙の力はダメダメダメで苦苦ばかりではなく、そういうふうな宇宙の無量の、宇宙のセッティングがありますからね！ただ「あー勉強しなくてもよい！仏になるのだ！何もしなくても成仏するのだ！」（笑）、これはまだダメです！！！ その「苦労」によって進化していく、そこが非常に蓮の華が泥から出てくること！ 泥がなければ蓮が出ないのです[2]。ところが「人間は泥をなくして蓮の華になりたい！」と。それは造花。造花はやっぱりね、あんまり味気ない機械の世界。見た目は美しいけど、全然違うわけです、生命体がないし。まあこれ以上、話したら長くなるので、これで私の無明と因縁の話ね、実際の生活でお話ししました。これまた教理で話をすれば頭痛くなります！ 私も何言っているか分からなくなるから、体験でしか話せない（笑）。

質疑応答

因縁は変えられるのか？

【参加者】

因縁というものは、もう決まっているのですか？ 変えられるのですか？

【水源師】

もちろんそうですよ！でも、今までずーっと続けてきた因縁があります。その最たる例が、お釈迦様のディーパンカラ仏陀（燃燈仏）が「お前はこの地球に生まれて、今から３阿僧祇劫の後に、菩提樹の木の下で仏陀になるだろう」。でも、その間にどれだけの涙を流して、仏に成

[1] 石見の才市（1850-1932）：浄土真宗の妙好人の一人。石見国大浜村字小浜（島根県大田市温泉津町小浜）出身。他力の信心を詠んだ念仏詩を 8000 首以上、残している。
[2]『維摩経』仏道品にも「高原の陸地には蓮華を生ぜず。卑湿の淤泥にすなわち此の華を生ずるが如し」と、高原の陸地には蓮華は生じないが、湿った泥の中に生ずる、と説かれている。

ったのか！ ただ成るわけではないのです。させられるわけ。

最後はね、最後の一つ前の話は、ある王国の王様だった。そのときに「自分はすべてを捨てるというサドゥー（全てを投げ捨てる）の行をしたい」と。そして、王国を捨てました。ただ、自分の妻と子どもを引き連れて森に入っていったのです。そして、ある老人が来て、「お前の子どもを奴隷にするからくれ！」と。お釈迦様は「はい」と差し上げた。王妃の奥さんは側にいて見ていました。そして王妃と二人で森に入っていって、ピンダパータ（托鉢）して街から食料を持って、王妃に食べさせます。そして、まあ子どもが取られて嘆きの果てで暮らしているから、胸も痛くて病気なのでしょうね、それで病気になって弱いから、では一緒に王城の門の側に連れていって「ここで待っていろ！」と。それで、食料もらって帰ってきたら、王妃はそこで死んでいました。そこで、ピンダパータを淡々と食べたと！

そういうことであってね。決まっていると言っても、ただトコロテン式にはならないです。

【参加者】

なぜ、お釈迦様は子どもを差し出したのですか？

【水源師】

つまり「くれ！」と言ったものは、すべて出すわけ。それがサドゥー。だから今でも南方のジャイナ教の行者は何も付けない。体に一つも何も付けない。衣一つ付けない。でも、インドのプライムミニスター（首相）は、そこに行ってお話を聞きに行ったりとか。それで、箸（はし）とかスプーンも使わない。こうして手で、全部。なんか動物的にしか私には見えないのだけれど、聖者なわけです。一切、何も持たない。この聖者の方は、バンガローの街の中で、裸で歩いていました。でも変には見えない。

なぜ「その因縁がそんなに複雑か」と言ったらね。18 の物質因縁があります。つくられる。また、精神的には六つの因縁が絡まり合って、結果的には、この私たちが今、生きている、この一瞬に大体 28 の物質因縁・マテリアルと 81 の精神のナーマ・ルーパ（心と体）、因縁が組み合わさって動いているものだから、そう簡単にね、「なんだかんだ」と解析できるわけがないのです。それをヴィパッサナー（観禅）やるときにはね、一つの因縁を四つの方向から観るのです、一瞬にして止めて。それで、はたと私は考えました。「一体どうしてこの究極の域へ、ヴィパッサナーの域の門前まで、皆さんを持っていけるか」と！「これは難しい」と。

私は「それよりは、空に直接入れた方がよいのではないか」と！「そこから入って、もう 1 回、戻ってもらってもよい」と。「色即是空、空即是色」の世界。そこをどうしても通過しないといけないから！ 南伝でも同じです。それで、それとこれを合わせたときに、どんぴしゃりと観えるわけ。密教の世界も、またどんぴしゃりと合ってくるわけです。

さっき説明したように！「この体には三十七仏が入っていますよ」と。だから、南伝では「三十二身分」瞑想法をやらせるわけ。それにプラス 5 個、五つの根（五根）といって、眼の根とか、口、鼻とか耳、体、五つ（眼・耳・鼻・舌・身）それで三十七。だから、一つ一つのファンクション（機能）には三十七仏が一体になって、この体が動いているから、「あなたたちは仏なのですよ！」と。だから「人を殺したら、仏を殺すことになるから、やめなさい」と。

三十七仏とブラフマ・ビハーラ（四梵住）

【参加者】
三十七仏は真言宗の中に出てくるものなのですか？ 南伝でも三十七仏はあるのですか？

【水源師】
それが、ゴエンカさんの始祖 レディセヤドーの『Manual of Nirvana』という文献の中に「三十七仏を祭れば弥勒菩薩に遇うことになるから、弥勒菩薩を待たなくてもいい」という南伝の方が言っているのです！

【参加者】
私、夏に高野山に行ったのですが、奥の院の最後の橋のところに「この橋には三十七仏の何かが刻んである」と書いてあったのですが、それと同じですか？

【水源師】
そうです。三十七仏の名前が入らないと、護摩焚きができないのです。この護摩焚きは、ブラフマ・ビハーラ（brahmavihāra:四梵住）を実際に体と行法で物質を動かす行法なのです。だから、さっき言った「メッタが非常に大切になる！」と。三十七仏にプラス、ブラフマ・ビハーラの行をちゃんと分からなければいけないと。ブラフマ・ビハーラのメッタをちゃんと観るには 520 のサブジェクトを観なければいけない。時間かかりますよ。それも第四定禅で一つ一つダーッと組み合わせていく。これがメッタ（慈）。そのあとカルナー（悲）。そのあとムディター（喜）、そしてウペッカー（捨）。全部やります。十方世界、四方八方に上下、十方世界、全宇宙を観て。だから、最終的に終わったときに、ターと天界から地獄界、全部観えるわけなのです。というふうにすべてが一体化しているわけです。ところが、これ全部、（ため息）私自身だって、どう教えようか？どうしようかと。まずまず法を持ってください！と。法を持って愛を磨けば間違いないから！偉い先生方がまた教えてくれるでしょう！ということを願って。「偉い仏陀にも出遇えるでしょう」ということで、私はやっているわけ。

【参加者】
弘法大師が観たものも、南のお坊様が観たのも、当然、同じなのですね？

【水源師】
当然、同じです。そうでなければおかしい。

地蔵菩薩様と実在する地獄

【参加者】

自分の祖母が子どものときに、『地獄と極楽』という絵本を「悪いことしないように」と見せられたのですが、それがすごく怖くて、内容が地獄なんかすごくリアルで、鬼とかが人間をこう、小さい頃は怖くて、大人になっても、それが残っていて、昔はファンタジーだと思っていたのですが、今は仏教勉強すると「これは本当だな！」と。

【水源師】

だから「法を持てばそこに行かない」。「メッタ」（慈悲）という、これが「法」なわけです。持たなければ、行く可能性があります。また「本当のものを嘘だ」と。「嘘のものを本当だ」という「無明」を持てば、そこの世界に入っていきます。私はお寺に行くとき、一番、嫌だったのは、その「地獄絵」を見せられることでした。「悪いことするなよ！」と。あらまあ、行きたくない！ だから同じ体験。いやー否定したいですよ！「ないない地獄ない。地獄はこの世の中」と（笑）。というふうに皆、教えられているから、どんどん人を殺したり、「あれは嘘だ！」と、「ないないない！」、とんでもない話。

だから、昔のロシアのある地方では、死刑執行人を探し出せなくて、王様が困ったのだそうです。キリスト教の国でもそうです。「人を刑罰で殺したって嫌だ」と。「そんなところに行く、その可能性があるから嫌だ」と。今はもうどんどん殺すだけ。ということは「地獄、それは嘘である。そういうものはない！」と教え込まれているから。でも、実際にそういう空間あります。すごいこと書いてある。

だから『地蔵経』の「地獄の話」をしようかと思ったけど、これ以上、皆さん嫌がることはやめるし、したくないから話しません。ただね、この地蔵様は、遠い遠い過去に、娘さんとして生まれたわけ。これはすごい話でね。お母さんが、とっても好きなわけです。親孝行でね。そしてまあ、ただお母さんがね、ピチピチした生きた魚が大好きで、いつも食べていたわけ、そして、あまりのお母さんを愛する思いで、お母さんが死んだ後「どうしても会いたい」と。500 劫前の仏にお願いしたわけ。もう仏も生きていなくて 500 劫という時空が経ったわけ。それで、その仏像に頭下げて「どうしてもお母さんに会いたいから、会わせてください！」と。そうしたら、夢の中で、雲に乗せてサーッとある世界を見せてくれるわけ。そして、ある世界に行ったら「ここは地獄の近くなのですよ！」と。この地獄の近くでは、海では鉄の魚が泳いで人を殺すわけ。で、陸では鉄の犬が人間を食いちぎるわけ。空からは鉄の鳥が飛んできて人を食い殺すわけ。なんだか現代に似ていますね！アフガニスタンとか。潜水艦、軍艦、200 年前は鉄の船なかったのですからね、戦車。それで、その時空を超えたら地獄界に入るわけ。

そして、お母さんを見て決心したわけ、「私はこの地獄を空っぽにするまでは、絶対に仏にならない！」。という仏になっちゃったわけです。もう仏なのです、菩薩様だけど。これはすごいことですよ。地獄を空っぽにする、すべて天界に上げてしまう。だから、日本津々浦々、地蔵様がまつられているのは、まあ「最高の仏」と言えば、実は、このお地蔵様なのですよ。愛そのものなのです。

だから、皆さんに「愛を磨いてください！」と。この経典を私は日本語で読んではいないのです。中国語で読ました。涙を流しながら読めるのです。漢文、分からないのに！ 不思議でしょ？ 日本にはこの経典がないのです。だから今、皆さん初めて聞くと思います。だから、何か

不思議で、漢文大嫌いだけどもね、何かそういう中国の経典を読めるわけなのですね。そうしたら、私の印幻先生が「お前どこからそれを聞いたのか！？」、「いや、経典に書いてあるじゃないですか」と言ったら、びっくりしちゃって。ということです。

だから、むやみやたらにね、「これだけだ！」とか「北伝だけ」とかさ、そうではなく、皆それぞれ善いとこを持っているのです。人間、一人一人が善いとこを持っているみたいに。「それを私たちがいかに生かしていくか」と。国家が潰れるとき、一番最初にやられるのは底辺を支える方々だから。だから、この前ある女優を殺して、若い男性が恋におかしくなってしまって、これは社会的な問題も大いにあるのだけれど、それが隠れています。まともな、こういうふうな真理を知った場合は、絶対に殺さない。真面目に働く、立派な青年になったかもわからない。

その「人間は善い悪いを知る動物である！」と、「神がそう創（つく）った」と。それで、「永遠の生命を与える！」と[1]。だから、「善い悪い」をしっかり社会が教えた場合は、こういうことにはならないわけです。なぜかといったら、あるロシアの地方では、死刑執行人を探すことができなかったそうです。今ではごろごろ探せる。「生命の重さ」。私たちが小さいときは「近所で誰かが死んだ」と言ったらワーと震えるくらい。「どうして死んだの！」くらい。特に事故とかだったら、なんか皆、一緒に感じ合いましたよ！「あー大変だ！」という。今は「あー死んだか」。

仏法は宇宙の最高の宝

【参加者】

私も今、因縁を感じましたけれど、幼稚園くらいのときに、京都ではお盆の「迎え鐘」というのがあり、五条にあるお寺さんにひっぱって、ご先祖様を迎えにいく風習があるのです。毎年、祖父が私を歩いて連れていってくれるのです。そこにずーっと「地獄の絵」が飾ってあるのです。そして、毎年、説明するのです、おじいちゃんが。もう嫌で！針の山に寝かされて！ そして近くにあるお地蔵さんにお参りして、嫁いで違うところに行きましても、家の入り口にちゃんとお地蔵さんがおまつりしてあったので、結婚してからは、ご先祖様を拝んでから、必ずそこを拝んで、『般若心経』を唱えるようにして、何かご縁を感じます。

【水源師】

そうですか。私は、その経典を読んだときは「やー！こんなに偉い方だったのか！」と。というのは、私はお母さんを大好きだったからね、母に対する愛というか。ずーっと外国に行って、母に対して深い思いがありました、こうして見たら、やはりお釈迦様の持ってきた「この仏法というのは、はかり知れない、宇宙の最高の宝である」ということが、日に日に分かっていくという。

昔は小さいとき「あらまあ！ おじいさん、おばあさんたち、お寺に行くよ！」と。「うんそうだな！もう怖くなったから、お寺に行くのかな！？」なんて（笑）。バカなこと言っていましたよ。「やっぱり年取れば、老いぼれるのかな！」（笑）なんて言ってもいました。なんと言いましょうか。そういう絵を皆さんに見せたら、今度、怒られるでしょ（笑）。でも（地蔵様が）

[1]『水源禅師法話集』第23巻「善と悪」（4頁）参照。

「私が全宇宙の地獄を空っぽにする！」と、これほど偉大なことはあるかと。それは、観音様は大好き、素晴らしい愛の固まりで。勢至菩薩様も大好き。阿弥陀の国で、観音、大勢至、二人ちゃんとおられて。まあ本当にこの「仏の世界は超大ロマンの大大世界」ですね。だから、そっと一人で楽しもうと思うのだけれど、そうもいかずにこうなって。

それは今回、楓（カエデ）の木が横倒しなっているのです、倒れるくらい。それで、藤棚（ふじだな）みたいに、こう空中に垂れ下がっているの。その木が金色に光で光るわけ、「ある時期は。それが、ありがとう！ 私を切ってくれないでありがとう！」と、一晩中ダンスするわけです。それは美しかった。私が小さいときは「あら、なんか風に揺れているな！これ」（笑）。今は「あらまあ、これは」という世界を知っているものだから！ただ見せてくれるものではないから。だから皆さん「ご安心して、無理なく、一歩一歩」。そういうことが、たくさんの人を浄化して助けていくことになりますからね！ ただ、自分が生きることによって、浄化して助けることになるのです。なぜかといったら、方向が間違っていないから。

湖には何千、何万という鳥がダーッと来るわけです。でかいです、何百万。そして、大将鳥がパーッと南に飛んでいけば、皆ザーッと後についていくわけです。だから、あなた方は、そんなわけです。もし、ちゃんと方向が間違わなければ、結果的にそういうことになります。

だから、細かいことは「あれこれ」とあんまり考えずに「できるだけ楽しく明るく元気に！」。難しいけれども。小さいことに、くよくよせずに！「惚れた、腫れた、振られた」は楽しい出来事。よいことです。ただ「あんまり我を忘れるくらいに、気をおかしくしないでください！」と。それもまた『若きウェルテルの悩み』という本を中学時代に読みましたら、ああいう偉大な小説が刻々と告白するくらいのですね、そこには普通の頭では考えられないことがあるのですから、「内に秘めて、告白する」と。大変な驚きで読みました。そのときの時代は「女に惚れるというのは、これほどいやらしいことはないし、男の恥だ」と教え込まれているからね（笑）。本当です。「女と一緒に歩く、これほど不良のことはない。女を見たら 300 メートル離れないと、男ではないと」（笑）と、今は逆みたいですが。

水源禅師のクティの湖にいる水鳥

水源禅師法話集 24

（2013 年 10 月 12 日 忍野合宿）

2014 年 11 月 21 日　発行

編集兼発行　一乗会